

兵どもが夢のあと 中世・戦国時代浪漫コース

コンセプトポイント



1 安楽寺

城山のふもとにある浄土宗の寺院で、本尊は阿彌陀如来(あみだにょらい)。もとは真言宗の寺院で、弘法大師の弟子、真紹上人(しんしょうしょうにん)の開山。811年に山頂に無量寿院を創建したのに始まり、本光山中道寺と改号し、長い間山頂にあったが、1380年赤松氏が城を築く際に山麓に移された。赤松氏の没落後、城主榑橋(ふしはし)氏によって浄土宗寺院として再建された。

チェックポイント 播磨守護、赤松一族の栄枯が表れている。



2 志方の城山

中道子山(ちゅうどうしさん)城【別名:赤松城】があった山。中道子山城は室町時代に赤松一族が築き、約170年間も続いた東播磨で有数の城。本丸、二の丸、三の丸にわかれていて、約2000平方メートルの規模をもっている。登山道は整備され、頂上からは北に七ツ池、東に権現ダム、西に高御位山、南は播磨灘まで見渡せる。

チェックポイント 播磨守護、赤松一族の城跡に当時の様子を感じることができる。



3 円照寺

円照寺は花の寺として知られ、さまざまな花が咲き誇る。境内には明応7年(1498年)の年号が刻まれた市指定文化財の銅鐘がある。この銅鐘はもともと山口県の上野八幡宮(うえのはちまんぐう)にあったものを、秀吉が島津との戦いで陣鐘(じんがね)として使用したと言われている。帰京の際宮谷附近に捨てたものを志方八幡宮に納めたが、鳴りが悪かったため円照寺に納めたとされている。

チェックポイント カモ類、パン、ゴイサギ、シギ類やトンボ、チョウなどが観察できる。



4 観音寺

室町時代、播磨守護であった赤松氏の家臣・榑橋(くしはし)氏が築城した志方城の跡。志方城は1578年、榑橋祐貞(すけさだ)が城主であったとき、秀吉を総司令官とした信長に反感を覚えていた三木城主の別所長治(べっしょながはる)に従ったため、信長の命を受け、毛利討伐のために播磨入りした秀吉に攻められ落城した。

チェックポイント 今はかつて城であったことを示すものは何も残っていないが、かつてこの一帯は志方城の本丸であった。

意外と知られていませんが、加古川にも中世・戦国時代の遺跡や城跡が数多く残っています。有名な武将、秀吉にまつわる逸話が残るこの地域でかの時代の浪漫に浸ってみてはいかがでしょうか。



©That's & Trial 2010